内閣府青年国際交流事業報告書2022

令和4年度
「東南アジア青年の船」青年会議

内閣府

序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

その中でも、「東南アジア青年の船」事業は、昭和49年（1974年）に我が国とASEAN加盟国との共同事業として発足したもので、船内や訪問国で生活を共にしながら、討論、ホームステイ、地元青年との交流等様々な活動を通じて、日本及びASEAN諸国の青年相互の友好と相互理解を深めるとともに、国際的視野を広げ、国際化が進展する社会の各分野でリーダーシップを発揮することができる青年を育成することを目的としています。

本事業は元々、参加青年が対面でディスカッションやセミナー等の研修を行うものですが、今年度も昨年度に引き続き、オンラインによる「東南アジア青年の船」青年会議を開催することといたしました。令和５年は「日本ASEAN友好協力50周年」という節目の年を迎えることから、メインテーマを「日本ASEAN友好協力50周年を迎える新たな協力の時代に、青年ができること」とし、社会課題の解決に向けたディスカッションを行いました。また、新たな取組として、「東南アジア青年の船」を疑似体験できる「バーチャル空間を利用した交流」や地域の文化体験などを取り入れた「日本の地方青年との交流会」プログラムを計６回にわたってオンラインで開催し、日本及びASEAN10か国の青年に参加いただきました。

本会議を通じ、参加青年には世界的な社会問題について大いに議論いただいたことで、国際交流の入り口に立ったことを実感し、この先の活動につながる学びを得たことと思います。今後も、様々な形で継続した交流を行い、更なる友好を深めることにより、東南アジア地域における次世代のグローバルリーダーを担い活躍されることを願ってやみません。

内閣府としても、これまでの交流事業の経験や実績を踏まえて、今後の「東南アジア青年の船」事業の更なる充実につなげていきたいと思います。

本報告書は、今回のオンライン交流で行った様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、「東南アジア青年の船」事業についての理解を深めるとともに、国際交流への関心を高め、今後の一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた参加各国の政府をはじめ、関係各位に、心から御礼申し上げます。

令和５年３月

内閣府青年国際交流担当室長

黒瀬　敏文

内閣府青年国際交流事業報告書2022

令和4年度「東南アジア青年の船」青年会議

CONTENTS

序 …… 3
カラーグラビア …… 5

第1章 事業の概要 …… 9
1. 趣旨 …… 9
2. 日程 …… 9
3. 参加青年（PY） …… 10
4. ファシリテーター会議 …… 10

第2章 「東南アジア青年の船」青年会議 …… 12
1. 日程 …… 12
2. 内閣府特命担当大臣挨拶 …… 13
3. 基調講演 …… 13
4. 地方プログラム …… 18
5. 交流セッション …… 20

第3章 ディスカッション・各グループのレポート …… 21
1. 教育グループ …… 21
2. 災害と防災グループ …… 24
3. 起業（NGO/NPO含む）グループ …… 26
4. 健康とウェルビーイング（メンタルヘルス含む）グループ …… 29
5. 情報とメディアグループ …… 31
6. 日本及びASEANの経済グループ …… 33
7. 貧困と格差グループ …… 36
8. 環境保護グループ …… 38
9. ソフトパワーと青年の民間外交グループ …… 40

第4章 ピア・ラーニングセッション …… 43
1. ピア・ラーニングセッション概要 …… 43
2. ピア・ラーニングセッション一覧 …… 44

第5章 参加青年による事業評価 …… 55
1. 事業全体 …… 55
2. 基調講演 …… 57
3. グループ・ディスカッション …… 58
4. ピア・ラーニングセッション …… 59
5. 地方プログラム …… 60
6. 交流セッション …… 60

関係資料 …… 61
1. 参加者名簿 …… 61
2. 参加青年の構成 …… 70